未来の“礎（石垣）”をつくりだす　― 歴史と今が共存する新しい熊本市庁舎 ―

熊本ならではの庁舎の姿とは、**歴史や文化を継承し**つつ、市民交流の場とデジタル情報が融合する“今までにない新しい場”に人々が集まり、**地域の魅力が体感できる**ことだと考えます。

城下町である熊本市街は、領域性をもちながらコンパクトで賑わいあるまちを形成しています。私たちは、そのまちの中心に、市民が日常的に訪れる**広場＝『フォーラム』**を設け、ここで展開される主体的な活動が熊本の更なる活力を生み出していく**“まち”となる庁舎**を提案します。

『フォーラム』には、防災・まちづくり・観光・産業・市民協働といった**テーマ別の“活動の場”**とともに、**市民活動が自律的に継続する“仕組み”**を、熊本市民と共につくります。

また、熊本城（石垣）から桜町・花畑地区に至る一帯の**『多様性と全体性』を調和させる庁舎**は、市民や観光客、訪日外国人に熊本の魅力を伝える象徴となり、庁舎が都市の中で熊本城と共に確固たる存在感を放つ場となります。

このような**庁舎づくりをまちづくりの原点**と位置づけ、**熊本の未来の礎**として災害に強く、地域文化を育みながら新しい市民価値と活気を生み出す拠点を計画します。

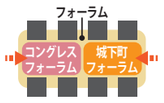
【“熊本ならではの庁舎づくり”で重視する方針】

1 防災拠点の庁舎
堅牢な外郭

熊本城のアイデンティティである石垣（外郭）が活動の場を守り支える

2 まちに開かれた庁舎
熊本の魅力が集まる『フォーラム』

人々が集まり、議論し、発信して、新しい文化を生み出す拠点

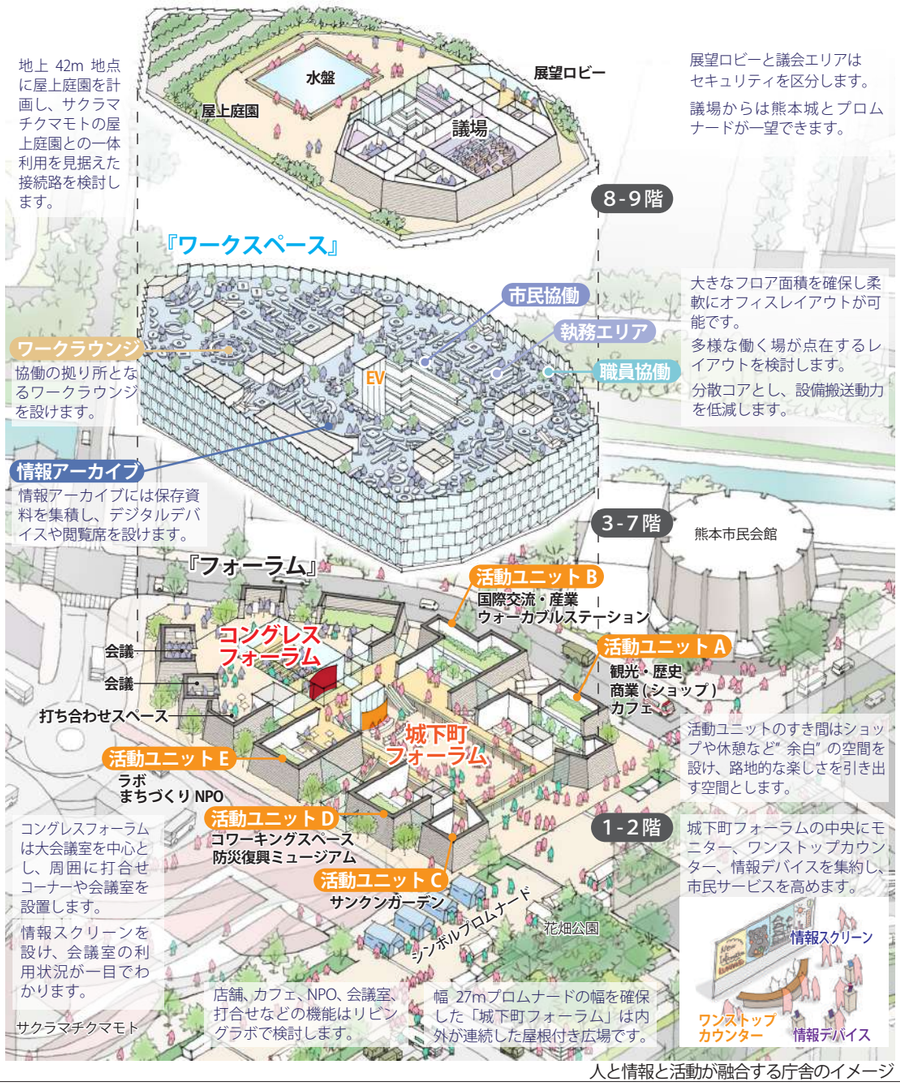


3 知的生産性を高める庁舎
自発的な活動を生み出す『ワークスペース』

時代の変化に対応した『人・情報・活動』が融合するフレキシブルなワークスペース

“熊本ならではの庁舎づくり”で重視する方針

【市民が行き交い、集い、情報が生まれる新しい庁舎】

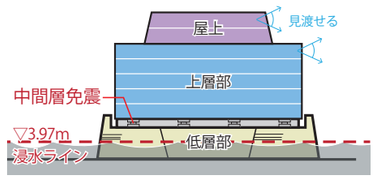


人と情報と活動が融合する庁舎のイメージ

【“熊本ならではの庁舎づくり”を実現するコンセプト】

1. 市民交流と守りの“礎（石垣）”となる庁舎

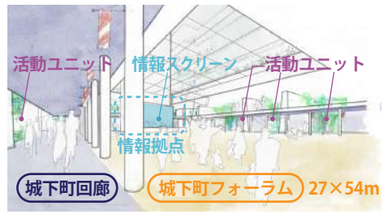
- **都市の歴史と文化の継承**…伝統と革新の象徴である熊本城の思想を取り入れ、伝統的な強さと現代的な柔軟性が融合した庁舎をつくります。「石垣」に囲まれ開かれた低層部は、人々が集い、市民活動や情報を育む場とします。
- **防災と再生の象徴**…「石垣」の構成による地震や水害等への安全性、開かれた市民のシェルターとなるフェーズフリーな交流の場が、地域の安心感を高めます。



災害に強い３層構成の庁舎

2. まちを育み、活力を生み出し、“まち”をつなぐ庁舎

- **活動と情報を集約**…プロムナードと連続する「城下町フォーラム」は、あらゆる市民活動と情報が集約され、一望することができる“まち”となる場です。
- **新しい文化を発信**…活動を支援する仕組みづくり（リビングラボ※の立上げ・運用）を行い、活動の持続性を高めます。この場で育まれる新しい文化がまちに発信され、庁舎がまちに浸透していく、“まちのための庁舎”を実現します。



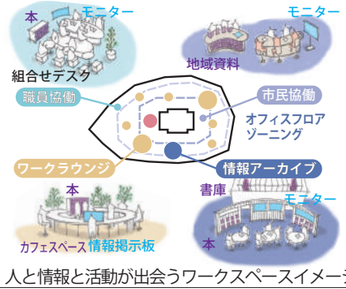
熊本のすべての魅力が集まる城下町フォーラム

※リビングラボ：市民、企業、行政が協働して社会課題の解決や新しい価値の創造を行う方法

3.『人・情報・環境』が融合し、自発的な活動を生み出す庁舎

- **オープンで柔軟なワークスペース**…フレキシブルなオープンスペースに「活動と情報の拠点」が点在する、柔軟な ABW※を実現できるワークスペースとします。
- **ウェルネスオフィスの実現**…「人・情報・環境」が連携するワークスペースにより、コミュニケーションを促し、知的生産性を高めます。

※ABW：業務内容に応じて働く場所を選択する働き方



人と情報と活動が出会うワークスペースイメージ